活躍の現場から

● 多文化共生への第一歩、町の人との交流から──福岡県築上町まちづくり振興課

はじめに

築上町は、福岡県の東部、周防灘に面し、南部はほとんどが山林、海と山に囲まれた、自然豊かで長閑な町です。人口は約1万7,000人の過疎の町ですが、20年以上前に大きな公園と隣接した場所に児童館を作ったり、小学生の学力向上を目的とした「築上塾(土曜講座)」を開いたりと、子育てや教育に力を入れています。

また、障がい者スポーツの普及・振興にも力を入れ、2019年8月には、町として全国初となる「共生社会ホストタウン」に登録されました。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に際しては、オセアニア島しょ国の事前キャンプ地に決定したことを契機に、2019年にオセアニア(オーストラリア)からCIRを招致し、オセアニア島しょ国の選手の事前キャンプに同行しました。

CIR の得意な分野を生かして、料理教室を開催!

2019年7月、合併して築上町となって初めての CIR、リアン・クリスティアンセン氏がやってきました。 まずは、どんな交流活動を行うか、JET プログラム コーディネーターと一緒に考え、CIR が得意な料理を活かした、オーストラリア料理教室「オージーキッチン」



料理が大好きな CIR とオーストラリア料理教室

を開催しました。

小さなお子さんから大人まで参加し、初めてのオーストラリア料理をワイワイ作って美味しくいただきました。また、クリスマスには「クリスマスポットラックパーティ」を開き、みんなで料理を持ち寄って、クリスマスソングの生演奏を聴いたり、キャンディーケーンリレーでは、子供だけでなく大人も夢中になってゲームに挑戦し、国際感覚あふれるクリスマスパーティを楽しみました。



クリスマスポットラックパーティ参加者と記念撮影

CIR 手作りの色々な種類のオーストラリアのお菓子には「びっくり!」「とってもおいしい!!」とたくさんの感想をいただき、帰りにはかわいい手作りアイシングクッキーもプレゼントしました。

2020年の春には、大好評だった料理教室の第2弾も 企画しましたが、新型コロナウイルスの影響で中止せざるをえませんでした。

コロナ禍だからこそ

急にやってきたコロナ禍。企画していたイベントは中 止になり、ソーシャルディスタンスを保ちながらできる ことを模索し思いついたのが、オーストラリア料理を給 食で味わってもらおうという企画でした。

1月26日のオーストラリアデーに合わせ、オーストラリア風給食を通してオーストラリアに興味を持っても



国の紹介動画を見ながらオーストラリア風給食

らうことが目的でした。

管理栄養士や調理員と何度も打ち合わせや試食を重 ね、ついに実現しました。子供たちに給食を食べながら、 作成したオーストラリアの紹介動画(日本語・英語バー ジョン) を見てもらうことで、オーストラリアをより身 近に感じてもらえました。

オーストラリア風給食を食べる子供たちに CIR が廊 下から声をかけると、「リアン!美味しいよ! | という 声が聞けて、とても達成感を感じました。

ほかにも、町の人が見過ごすような町内のちょっと不 思議なことを Instagram にアップしたり、コミュニティ FM に月に2回出演し、オーストラリアの文化や、オー ストラリアならではの英語表現などを紹介しています。



月に2回コミュニティFM 局で ワンポイント英会話



CHIKUJO_KOKUSAI

築上町国際交流員活動 報告 Instagram

また、英会話講座3クラス、少人数ですが生徒さん と楽しく英語でコミュニケーションを図っています。そ して英語絵本の読み聞かせ&工作などのさまざまな活動 をしています。



少人数で英語絵本読み聞かせ会



子どもたちと英語でコアラの折り紙作り

じっとしていられない

今年の春には、子供たちのために何か楽しいことをし ようと、屋外で思いっきり遊べる謎解きイベントを企画 しました。

オーストラリアや築上町に関する謎解き問題をたくさ ん考案し、子供たちが柔軟な頭脳を存分に発揮できるよ う、そして広い公園内に散りばめられた謎を歩いて探し リフレッシュできるよう、入念な準備をしました。しか し、緊急事態宣言が発令され泣く泣く中止となりました。 ですが、いつでも実施できるようスタンバイしています。

CIR として何ができる

来日して、思うように活動ができない日々を送ってき ましたが、JET プログラムコーディネーターと二人三脚 で、励ましあいながら楽しく交流活動を続けています。 町に出ると、「リアン! と気軽に声をかけられます。 CIRは、町の人と交流し、町の人の意識を変え、そし て新たな1歩を踏み出すきっかけになっていると思い ます。これからも町の人との交流を通して、小さな町に 新しい風を吹かせてほしいと願っています。